

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年5月19日

【評価実施概要】

事業所番号	4073400477		
法人名	有限会社 寿楽		
事業所名	グループホーム 安寿		
所在地 (電話番号)	福岡県太宰府市高雄1丁目3664番256 (電話) 092-921-8780		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成20年4月25日	評価確定日	平成20年5月29日

【情報提供票より】(20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	11 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 5.2人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	200,000	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	72 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小西第一病院、原病院、別府内科、ひらた脳神経外科クリニック、筑紫野歯科
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは小高い丘の住宅街に位置し、自然と触れ合うことのできる環境にある。庭には、菜園や花壇が広がりまさに我が家の面持ちである。平成16年に現在の場所に2ユニットで設立されたが、それ以前は民家にて少人数の利用者と共に生活してきた。その頃からの職員が現在も働いており徐々に体制を整えてきたとの事である。その協力体制にて職員が伸び伸び働いており、離職者が少ない理由でもある。その中で暮らしている利用者の状態や希望をセンター方式を用い細かく情報収集しており、利用者の穏やかで明るい笑顔が、ホームと利用者の良き関係にあることを窺い知ることができる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議に利用者が参加できるような取り組みを行っている。職員を育てる取り組みに関しては、徐々に研修への参加や内部研修を行っている。介護計画を立てる際にセンター方式を用い利用者の状態の把握はしているものの計画の目標等がはつきりしていない。災害対策では、夜間想定訓練はしているがまだ地域住民の協力の呼びかけや備蓄品の整備はまだである。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価、外部評価の意義等は管理者から職員に説明をし、項目を職員が担当制にし分割して話し合い、再度全体で話し合っている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回定期的に開かれており、地域の代表者や市の担当者の出席があり、ホームの状況や活動の報告を行い、出席者から意見、アドバイスをもらいホーム運営や日々の生活の向上に活かし取り組んでいる。地域との関わりが深まり、地域の活動へ積極的に参加している。会議に職員が出席していないので、ホームを全員で運営する為にも職員の出席を検討してはいかだろうか。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>管理者や職員は家族が面会に訪れたときは気軽に声をかけ、要望等聴き取っている。意見箱の設置をしているが書面では意見は未だないとのことである。月に1回利用者の状態を記した通信を家族に送っている。今後の検討課題は家族会の発足とのことであるが、準備を整わせ早い段階で開催し、更なる家族との懇親を深めていただくことを希望する。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内の行事の参加に積極的に参加している。ふれあいサロンや夏祭りに利用者と共に参加したり、防犯パトロールにも利用者と共に参加している。また、ホームの行事にも地域の住民を招待している。このようなことから、地域住民のホームへの理解も深まり地域に溶け込んでいる。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくあげている	職員と話し合い決めた理念 皆で笑い合える家、真心のこもった介護」と基本方針 5か条があり 利用者の心の安定と地域との関わりを重視したものである。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる	管理者、職員共に朝礼(月曜日)で理念を唱和し、日々の生活で取り組みを行っている。また、カンファレンスにて理念を確認し、職員への意識付けを行っている。ホーム内の目に付くところに掲示しており ホームの姿がわかるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、町内や地域の行事に積極的に参加している。夏祭りや、防犯パトロール等に利用者と共に参加したり ホームの行事である餅つき大会やバーベキュー大会へ近隣住民を招いている。また、地域からのボランティアの受け入れも行っており 地域と密着している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価に対し可能な部分から取り組み、今回の評価にも管理者を中心とし取り組みは行っている。自己評価の項目を職員が分担し話し合い、更に全体で話し合っている。職員の理解もあり 管理者と職員が共に取り組みを行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的開催し、ホームの状況、活動の報告等行っている。それに対し出席者が助言したり意見を出し、ホームの運営やサービスの質の向上に取り組んでいる。利用者の参加もあり 地域の住民への理解が深まっている。		

グループホーム 安寿

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者ど運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者と市担当者の関わり先ある。ホームとしての関わりは、管理者を中心に何か困ったことがあった場合等相談に出向き連携をとっている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員は研修に参加しているが、全職員が周知理解には及ばない。パンフレットもあるが、目に付く場所に置いていない。		必要とする人への情報提供は管理者が行っているが、職員全員が周知、理解しておくことが望ましい。今後、内部研修の機会を設け職員が周知することやパンフレット等の準備をし、職員が見れるようにすることが望ましい。
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には家族に必ず声をかけ、本人の状況を報告している。それに加え1ヶ月に1回「家族への通信」にて本人の状態の報告を行っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には職員は必ず声をかけ、意見や要望を聴き取る姿勢を基本にしている。また、運営推進会議においても意見を聴き取り、反映させている。公的な窓口等があることは契約時に説明している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	隣接ホーム間での職員の異動は行っておらず、退職者も少ない。離職等で引継を行つ場合は、期間に余裕を持ち利用者の情報交換を確実にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用時に特に条件等は設けていない。ホームで働く職員の特技を活かし、趣味活動に取り入れている。また、職員の意見を取り入れ職員が働きやすい環境を作っている。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>日常の業務の中で管理者が職員に随時説明を行い、職員も人権尊重の理解をしている。外部研修にも参加し、内部で伝達研修を行っている。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修に関しては、回覧し案内を行い職員が参加している。内部研修に於いては、その都度カンファレンスにて研修を行っている。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に入会し、職員と共に出席し他の事業所と交流を図っている。また、認知症を抱える家族の会にも参加し情報交換を行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	ホームの見学やお試し入所にて、利用者が馴染めるようにしている。お試し入所の期間は設けておらず、利用者、家族が納得するまで試すことができる。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	利用者と職員が家族のように暮らすことを大切にしている。職員が知らない昔の知恵や掃除方法等利用者から学ぶことが多い。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	センター方式を活用し、入居時に本人、家族から希望や思いを充分聴き取っている。また、家族の面会時にも確認したり新たな要望等を聴き取るようにしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	本人、家族から要望や暮らし方を聴き取りカンファレンスにて話し合いを行っている。主治医からの助言等は受診時に聴き取り計画に反映させているが担当者会議の記録がなされていない。また、計画には目標がはっきりしていなく、期間が記載されていない。		家族の意向を確認する上でも担当者会議に家族の参加を呼びかけ細やかな情報を収集したり会議録の作成を行ない、ニーズ、長期目標、短期目標が確認できるものとなることを望ましい。
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヶ月に1回モニタリングを行い、カンファレンスを行っている。本人の現状の変化に合わせているが、目標がはっきりしておらず、モニタリングの記録も無い。		利用者の状況に合わせて計画を見直していることは明らかであるが、モニタリングの記録を残し、本人の状態の変化やニーズを誰が見ても解るものにするのが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状態に合わせ受診の付き添いを行ったり 家族に代わり受診の支援を行っている。また、希望があれば家族の宿泊等受け入れている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医との関係を継続できるよう支援している。本人、家族の希望があれば協力医への変更もある。本人のかかりつけ医への受診時に情報交換を行い本人の変化に対応している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に同意書を交わし、説明を行っている。重度化した場合は家族と話し合い、状態やホームの体制を考慮した上で協力医やホームで看取る方針である。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者が落ち着いて暮らせるよう言葉かけや対応には配慮している。個人情報がかかるものの掲示等にも気をつけているが、個人記録のファイルが事務所の棚に並べて保管されている為、誰でも目に付きやすい。		個人記録は書庫に保管し関係者だけが保管場所が解るように配慮することで、利用者の個人情報の保護に繋がると思われる為、保管場所を検討されることを期待する。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはおおまかに1日の暮らしの流れはあるが、強制するものではなく本人に聴き取り、個別に対応し本人のペースで生活できるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が立てた献立を職員が調理している。利用者はできることを職員と一緒にやっている。料理の盛り付けや味見を行っている。後片付けをてきぱきと行う利用者もおり、職員と共に楽しんでいる姿が見られる。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2ユニットが隔日で入浴日を設けているが、本人の希望でどちらでも入浴できるようにしている。時間帯の設定は無く、利用者は午後入浴を希望することが多い。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の特技や能力に応じ役割がある。洗濯物を干したりたたんだり掃除を得意とする利用者や壁面を飾る絵画等の作品作り等個々の力を引き出し楽しめるよう職員が寄り添い支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や能力に応じ散歩、買い物等毎日ではないが出かけられるように支援している。ほぼ毎日のように近隣へ散歩に出掛けている。徒歩が困難な利用者への援助は、ドライブへ誘うなどできる限り外に出るような機会を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠はすることなく、職員が見守り利用者の安全に気を配っている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練を実施している。消防署立会い、夜間想定も行っている。地震対策や備蓄品の整備が未だなされていない。災害時の近隣の住民の協力体制においても整っていない。		定期的に避難訓練を実施し、マニュアルの準備もあるが、近隣住民の協力体制は得られるかははっきりわからない状況である。地震時の避難体制や備蓄品の準備を整え、近隣への避難訓練の参加等呼びかけ、利用者が安全に、安心できる暮らしを提供する事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養バランスを考慮した献立を立てている。摂取量等の記録を行っており、水分摂取においては、利用者の状態に応じ記録している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには季節の花が植えられ、利用者が集う場所には、広い窓から暖かな日差しが入るよう工夫されている。畳みのスペースは自宅で寛いでいるかのような落ち着いた雰囲気がある。壁面には、利用者と職員が協働作業した季節感のあるカレンダーが張られており、春を感じることができる。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個々に居室には、馴染みのものや、使い慣れた筆筒、椅子等が持ち込まれ、入居前からの其々の暮らしが継続されている。		